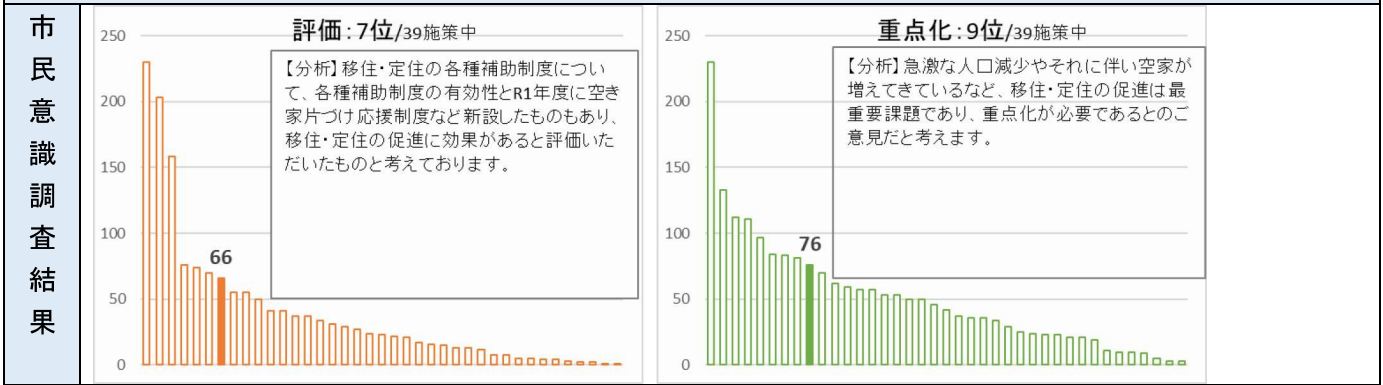


② 移住・定住の促進 ≪評価：57.5点≫



施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	
		H29	H30	R1	
成果指標 下記3事業を利用した 転入者数	目標	人	85.0	85.0	85.0
	実績	人	184.0	166.0	155.0
	達成率	%	216.5	195.3	182.4
	ベンチマーク		—		
参考指標① 若年夫婦世帯家賃補助 事業利用世帯数	目標	世帯	65	65	65
	実績	世帯	87	48	41
	達成率	%	133.8	73.8	63.1
	ベンチマーク		—		
参考指標② 若年者新築住宅補助事 業利用世帯数	目標	戸	40	40	40
	実績	戸	48	57	63
	達成率	%	120.0	142.5	157.5
	ベンチマーク		—		
参考指標③ 空家活用促進補助事業 利用世帯数	目標	世帯	25	25	25
	実績	世帯	29	40	36
	達成率	%	116.0	160.0	144.0
	ベンチマーク		—		

成果指標の妥当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4	4	4	2	2	3	3
評価採点		4	3	2	2	3	3	
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 定住施策としての最終的な目標は、魅力あるまちを作ることになりますが、即効性のある対処法の一つとして、若者世帯に向けた新築住宅や家賃補助が有効であることが数値として実証されているため。 							
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ある程度ターゲットを絞っているため効果が分かりやすいです。 成果指標に定住者分は入っていないのでは？ 空家等除却支援制度の活用の数値がない。 							
事業構成の妥当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	2	2	2
	評価採点		2	3	2	2	2	2
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 若者世帯に対する住居、子育て施策として有効と判断している。空家活用促進補助事業については空き家の流動化促進の観点からも効果がある。 							

	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 概ね妥当 一時的な移住には効果あると考えます。 若年層に特化したものが多く、時代のニーズに合っているか微妙。 補助金ありきの事業になっている。 						
施策の有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4	3	4	2	3	2	2
	評価採点		2	2	2	3	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 各補助事業における申請状況は順調であり、移住・定住施策としては一定の効果があると思われるが、既存の補助内容や新たな制度等については検討を行い、移住・定住の促進につなげる。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果が低いという分析では？ 時代が大きく変わってきており、目標値の設定が妥当か分からない。 施策の有効性は妥当だが、次年度以降の計画が分からない。 他部門との連携、会議がない。 長期の力強さが感じられない。 						
R2年度の取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	3	2	2	2	2
	評価採点		3	3	2	2	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 移住定住に係る補助事業は引き続き取り組むが、中でも若年夫婦世帯家賃補助事業は補助金が支給されて補助期間の3年間が経過する世帯がでてくるため、その後の動向に注視する。また、その他の補助制度でも3年目となるため、財源にも限りがあり、制度の見直しが必要で、効果的な制度としたい。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 財源の確保や新しい施策の打ち出しなど次に進んでいるように感じます。 意欲は感じます。 施策の問題点の揭示が反映されていないのでは？ 把握はよくできているが実行にもっと力を入れてほしい。 内容をもう一步踏み込んでほしい。 課題認識はされているが、課題解決のための取組及び成果指標の策定が不明確なため、ここ数年変わっていない。 						
R3年度の取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			3	3	2	2	2	2
	評価採点		2	2	2	2	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 成果を踏まえると継続実施が妥当と考えるが、内容については吟味を行う。 また、空家活用促進補助事業の活用については申請件数が増えれば、空き家対策事業としての効果も期待される。新しい働き方として在宅ワーク、都会からの移住など市でどのような生活スタイルができるのか官民で研究し取り組んで行く。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> もっと市民ニーズを貪欲にとらえて良いのでは。 企業誘致も頑張ってもらいたい。 わかっているがすすめられない。方策をみんなで考えましょう。 移住希望者の体験アンケートを充実させ、意見に対しての対応と取組みを強化すべき。 明確で市民に分かりやすい目標値を定めてほしい。 長期のビジョンの強さが足りない 						

市民委員から見た課題

- ・理解できました。
- ・わかりやすく真摯に取り組まれていることが分かります。
- ・H29年度の市民委員会報告書の内容が反映されていない。
- ・成果指標内のベンチマークの数字の根拠がわからない。
- ・人口が確実に減っていく中でより備前市の特色、住みやすく魅力ある街としてどうあるべきかのイメージが大切なように感じます。
- ・移住アドバイザーは移住経験者が良いのではと感じます。
- ・パンフレットに備前市の強みの利便性（周囲とのアクセス）を書いてみては？
- ・パンフレットにデメリットの記載もある方が良いのでは？（良い所ばかり書いていると来た時にがっかりする）

長期的に取り組むべき課題

- ・移住者が疎外感を感じないようなコミュニティの場づくり
- ・新しいアイデアの出し合いをお願いしたい
- ・岡山県移住ポータルサイト「おかやま晴れの国ぐらし 移住・定住支援」に各市町村が連携してオンライン相談会の開催や、県HPにバナーの張り付け等しているため、移住定住を希望する人にとっては情報が入りやすい。うまく活用を。
- ・移住よりも定住に力を入れるべき。地元会社の企業誘致、学校・病院の存続を長期で努力してほしい。

委員会後の担当課対応（施策評価シートも修正しております）

- ・施策評価指標のベンチマークの必要性（数字の根拠がわからない）
→前年の実績をベンチマークの欄に記載しているだけのため、削除しました。
- ・⑦連携させる他部署の事業の記述について（企業支援との連携に関する記述がない）
→産業観光課（企業誘致・支援）との連携について、施策評価シートに追記しました。
- ・⑧施策の評価の1.2.3の記述（昨年と記述が変わっていない）
→施策評価シート内の記述を更新しました。
- ・オンライン相談について
→委員会後、オンライン相談会の受付を開始し、既に相談も受けました。また、県主導のオンライン合同相談会も行っています。また、11月1日には備前市の空き家物件を回るオンラインバーチャルツアーも行き、新しい生活様式の中、PRを工夫して行っております。
- ・移住者へのPRについて
→今年度移住者向けのパンフレットを新しく作り変え、PR動画も初めて作成する予定です。また、備前市の移住ページをより見つけやすく、分かりやすくするために、移住のトップページを作成する予定です。
移住を考えている人にとって高い関心のある雑誌（田舎暮らしの本など）での備前市の情報、先輩移住者の情報、空き家情報等の発信や、移住を検討している子育て世代をターゲットにした情報発信など、ターゲット層に移住先の候補として備前市を知っていただく工夫をしております。